

学校支援ボランティアと協働する4つのアイデア

(1) 「ボランティア会議」などを定例化し、情報交換と打合せを行う。

ある小学校では、毎週第二火曜日の午後5時から「ボランティア会議」を開催しています。1時間程度の会議で、そこでは教職員とボランティアが意見交換を行い、その双方が情報を提供し合っています。学校とボランティアのそれぞれの思いを出し合い、問題解決を図っています。また、新しいボランティアが入る時には、打合せの時間としても活用されます。

(2) 活動部門ごとにボランティアの名称をつけ、役割を明確にしておく。

例えば、花壇整備担当をフラワーボランティア、図書室担当を図書ボランティア、授業の補助を学習アドバイザーなどと名付けている学校が多く見られます。これは単なる名称だけの問題ではなく、ボランティアの役割を明確にするという意味があります。そうしないと、特定のボランティアにいろいろな仕事が集まり、本来の役割をこなさきれなくなってしまうからです。

(3) ボランティアを外部評価者に位置づける。

学校でも外部評価に取り組むところが増えてきています。しかし、学校評議員やPTA役員に外部評価をお願いしても、学校の様子を日頃から把握しておかないと、なかなか適切な評価を行うことができません。そこで、日常的な支援活動をとおして学校の教育活動や子どもの様子を把握している学校支援ボランティアの方々に外部評価をお願いすれば、適切な評価を行うことができます。

(4) 「学校支援ボランティアだより」を発行し、活動の輪を広げる。

定期的に「学校支援ボランティアだより」を発行し、その活動の理解を促し、新たな活動希望者を募る取組が見られます。そうすれば、保護者もボランティア活動を理解でき、ボランティア自身のやりがいも確かなものになります。これは学校支援ボランティアコーディネーターの役割の一つです。

学校支援ボランティアと熱心に協働している学校では、生き生きとした子どもたちや教職員の姿を見ることができます。子どもたちにとって楽しく意義のある学校づくりを目指し、教職員がやりがいを感じられるような学校づくりを進めるための秘けつ、それが学校支援ボランティアとの協働ではないでしょうか。

